



OB 会だより

国臨協 OB 会関東信越支部

平成30年1月1日
 発行責任者：岩村義昭
 編集責任者：三浦隆雄
 国臨協 OB 会事務局
 千葉県市川市東国分 2-1-26
 TEL：047-372-0713



新年のご挨拶

会長 岩村 義昭

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新しい年を迎えられたことをお慶び申し上げます。

平成の世も30年になりますが、天皇陛下の譲位により、来年5月1日には元号が変わることになります。陛下のご意向を汲んでのことです。上皇となられて肩の荷を軽くし、穏やかに過ごされ、ご長命であられることをお祈りしたい。

昨年を振り返るとやはり、地球規模での自然災害の多発です。台風・ハリケーンの大型化強化。集中豪雨などは地球温暖化が関わっているといわれる中、パリ協定からの離脱を言うトランプ大統領何をか言わん。そんな中、欧州は前向き。アメリカの幾つかの都市でもパリ協定を守ろうとの動きがある。希望をもって見守りたい。

日本の科学技術は、大丈夫なのかと思わせる事例が多い。一流と言われる企業でのデータ改ざんや不祥事である。モノ造り日本の誇りは何処へ。安心安全の信頼を回復してもらいたい。昨年の漢字一文字は「北」だった。かの国の核実験、ミサイル開発など懸念が多い。さらに国際

テロの多発。実行犯やその背景を調査すると、宗教との関連より貧困が大きな問題だという。

明るい話題は上野動物園のパンダ誕生。チバニアン（千葉の時代）命名の見通し。将棋で中学生棋士藤井聡太の29連勝。羽生善治が永世7冠を達成、囲碁の井山裕太7冠達成(2度目)、お二人とも国民栄誉賞受賞。将棋も囲碁もAIに対しては不利であるが、やはり生身の人と人との戦いが見どころ。これからの若手・中堅・ベテランの対局が楽しみである。そして何といっても日本人初桐生祥秀 100メートル 9秒98。他の選手もどんどん続いてほしい。エンゼルスへ入った大谷翔平。二刀流での活躍に期待。平昌オリンピック、サッカーワールドカップなどなど、楽しみがいっぱいである。OB会113名会員の皆さんも選手を応援し自らも体を動かし、元気に朗らかに一年を過ごされます事をお祈りいたします。



定年後の再出発

松 林 守

OB会の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年3月、国立成育医療研究センターを最後に定年退職しOB会会員となりました。

この間、国立医療施設では9施設（41年間）で勤務する中、諸先輩方のご指導と素晴らしい仲間間に恵まれ、大過なく定年を迎えられたのは、皆様方のお陰だと思っています。

さて、OB会には協議会を通して毎年総会に参加させていただいており、OB会の一員みたいな状況でした。私自身改めて会員になったという実感はなく、皆様にも新会員としての新鮮さを感じていただけないのではないのでしょうか。改めてよろしくお祈りいたします。

若いときには退職後の生活は、吉田兼好の「徒然草」の冒頭にある「つれづれなるままに、日ぐらし硯に向かひて…」のような世界でありたいと思っていました。しかし現実には厳しくこの数年、退職金の大幅引き下げと、年金支給年齢の段階的引き上げなど厳しい状況となっています。中でも退職金で返済できると思っていた住宅ローンは完済できず私の定年後の計画は大きくその舵を切ることとなりました。もう少し働かなくては行けない、せめて自分の小遣いぐらいは自分で稼がなければ「定年貧乏」になってしまう。自由な時間を手に入れてもお金がなければ好きな釣りが出来なくなる。そこで再就職口を真剣に探すことにしました。就職活動では、多くの方々に、ご心配やお声かけいただきありがとうございました。お陰様で5ヶ月間自由な時間を過ごした後、9月から湘南慶育病院にてお世話になることとなりました。

この湘南慶育病院は11月にオープンした新設の病院で、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス、そして慶應義塾大学医学部と共同で、健康・高齢社会抗加齢研究／医療ビッグデータ研究／ヘルスイノベーション研究、スマートリハ研究など最先端の健康長寿社会の延伸に向けた取り組みを進

めています。中でも、スマートリハは、従来治療が難しかった重度の麻痺に対し、より効果・効率的なリハビリテーションを目的としています。

検査科は技師7名で検体検査、生理検査を中心にを行っています。長年現場から遠ざかっており戸惑うことが多い毎日ですが、仲間と一緒に新設の検査室の運営に取り組んでいます。

最後に、健康であればささやかな幸せが沢山ある老後を迎えることが出来ると信じ、そのためには、もうしばらく健康に留意しながら体にむち打って頑張りたいと思います。

OB会の皆様も健康には十分に留意され、新しい年が皆様にとって素晴らしい1年でありますよう心からお祈りいたします。

「光陰矢の如し」の諺に思う

稲葉 孝

小学校の下校時間に学校脇の道を歩いているとスピーカーからドヴォルザークの交響曲9番(新世界)流れてきました。懐かしい音色が走馬灯のように様々な出来事を思い起こしてくれました。

人生をのんびりと過ごしてきたような感じがします。「光陰矢の如し」いつの頃からか月日のたつのは、矢が飛んでいくようにとても早いものだと感じていました。小学生のころ、ぎりぎりまで夏休みの宿題をやらない人には理解しやすいと思います。どこまでも限りなく無限に続く夢のような暑い毎日、いつまでも鳴りやまないセミの声を聞いていると宿題なんて明日からでも早すぎるくらいだと感じていました。当時はあっという間に休みが終わりそうになっていました。

親に「10年なんてあっという間に過ぎてしまうんだ、後悔しないように過ごせ」そう言われてきました。小学生の6年間は、一年間がとても長く感じられ、背伸びして早く中学生になりたいと思ったものです。しかし、気がつくとも中学、高校と瞬く間に時間を過ごし早かったように感じました。あの時、親に10年なんてあっという間に過ぎてしまうんだと

言われたことがとても良く分かった時期でした。しかし多くの方は楽なほうを選択して生きてきたのではないのでしょうか。

顔の皺と同じように人生の年輪を重ねると実感が増してくる味わい深い諺です。光は日を表し、陰は月を表現しています。ですから如しは、まるで何々のようだ、ということなのです。単純に時間がたつのは早いものだという使い方だけではなく、時の流れは誰にでも平等で人生は長いようで、瞬く間に過ぎるから時間を大事にしなさいという意味のほうが適していると感じます。諺どおりに、直ぐに行動に移せる人がいるかもしれませんが、「継続は力なり」であることを忘れてはいけません。誰もが現役時代を必死に生き抜いてきたとおもいます。ただその矛先が己のため、家庭のため、施設のため、多種多様であったとおもいますが、その結果がどうであれ過ぎてしまったことです。

過去は過去をして葬らしめよ、先に駒を進めましょう。過去があるから現在があるのです。この先は今までとは異なる生き方になろうかとおもいます。月日がたつのが早いという意味合いよりもこれからは、時間は大切にしないといけないと感じます。そしてときには太陽が沈む夕暮れ時に「光陰矢の如しだなあ」とおおらかに思えるのも悪くないとおもっています。

退官して今

鈴木 喜久雄

OB会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年3月に宇都宮病院を退官し、今年度よりOB会に仲間入りをさせていただきました。

私は、昭和56年に国立病院医療センターに採用になり、南横浜病院、横浜病院、西群馬病院、久里浜病院、宇都宮病院の6施設でお世話になりました。西群馬病院では単身赴任をし、宇都宮病院は新幹線通勤もしました。この間、多くの先輩、仲間に恵まれて充実した現役生活を送ることが出来ました。今更ながらに感謝しています。

昨年4月より自由な身となり、現在は週2日抗酸菌検査の仕事をさせていただき、それ以外の日は百姓生活を楽しんでいます。農業もやればやるほど奥の深いもので、手探りで毎日格闘しています。検査の仕事では、データがおかしければすぐに再検が出来ますが、野菜作りはもう一度となると短くても半年、ほとんどは1年先になります。何が良いのか悪いのか、天候の具合はどうだったのかと、いろいろ悩みながら楽しんでいます。

何より食事が野菜中心となり、健康にはいいし、家計にも貢献しています。種を蒔いて収穫できるまで病気に感染していないか、害虫は付いていないか、肥料は足りているかと目配りをしていますが、ふと現役生活を振り返ると、こんなにも周りに対して気配りをしていなかったんじゃないかな？とちょっと反省もあります。野菜作りをしていると、今はやりのインスタ映えするおもしろい形をした野菜に出会うことがあります。ちょっと写真を載せておきます。

いずれにしても、熟年生活を楽しむのも健康でなければ何も出来ません。OB会の皆様の健康を祈念いたします。

今後ともよろしく願いいたします。



国立埼玉病院の今

柳 進也

今回は、独立行政法人国立埼玉病院の歴史と現在の状況について簡単にではありますが紹介したいと思います。

埼玉病院の始まりは 1941 年（昭和 16 年）7 月 20 日に埼玉県新座郡新倉村（現・和光市）に大日本帝国陸軍が白子陸軍病院として開設したのが始まりとなっております。その後、1944 年（昭和 19 年）に振武台陸軍病院と改称され、翌年 1945 年に第二次世界大戦で敗戦し、全ての陸軍病院が連合軍総司令部の監督下に置かれるようになりました。日本政府と連合軍総司令部との交渉の結果同年 11 月に「厚生省に移管して一般市民の医療を行う事」などを条件に返還されることになり、これを受けて当院も厚生省に移管され「国立埼玉病院」と現在の名称へと改称され一般市民の医療に当たる病院となりました。

平成 29 年 8 月現在の病院の規模や病院の主たる機能は、病床数が 350 床（CCU：8 床、HCU：8 床、NICU：4 床を含む）外来規模は 650 人、診療科は 30 診療科となっております。

また、主たる機能としては地域医療支援病院、循環器病基幹施設、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域周産期母子医療センターなど様々な役割を担っております。

さらに、埼玉病院は「医療と経営の質をシステムで管理する」をモットーとし、国際マネジメントシステム（MS）を活用して病院内の全てのシステムの見直し、改善を行っており、QMS（ISO9001：医療の質）、BCMS（ISO22301：災害時の事業継続）、EnMS（ISO5001：エネルギー削減）の 3 つの ISO の認証を取得しており、組織も個人も常に PDCA サイクルを回し続け、常により優れたものに成長する必要があると考えております。

臨床検査科は現在、22 名（事務助手 1 名を含む）で日々の業務を行っています。各部署の割り当てについては技師長、副技師長、病理検査 3 名、細菌検査 2 名、輸血検査室 2 名、生理検査室 12 名（事

務助手 1 名を含む）となっております。また、現在検査科主導の下、当院 4 つめの ISO の認証となる ISO15189（臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項）の本年度中の取得に向け各部署が毎日の業務終了後、遅くまで審査に向け準備に取り組んでおります。検体採取から結果報告までの全ての工程を、国際的なマネジメントシステムの要求事項に従って行う必要があるため、各種業務の手順書をはじめ、業務記録やそれらを管理する文書の作成、各検査室の環境整備等を進めています。これらの活動を通して、組織の一員としての自我に目覚め、組織の活性化に繋がります。効率的な組織運営が可能となり、患者サービスのなど、様々なメリットが得られることとなります。

今後、新棟建設に伴い、患者数、手術件数の増加と検査科が担う業務も増加することが見込まれます。国際規格による認定取得を通し、検査結果の正確さの向上により、良質な検査の施行により、対外的な信頼も高まり、病院の評判にもつながると考えます。

これからも地域に根ざした病院として、地域の人々の為の安心で良質な高度先進医療の提供に努めている、埼玉病院をよろしく申し上げます。



救急機能拡大を目指して、
350床 から 550床へ



健康長寿と話のタネ

—— 臓器や細胞の寿命 ——

人には寿命があります。2017年3月の厚労省の発表によりますと、日本人の平均寿命は、男性80,75歳、女性は86,99歳でした。人体臓器の組織や細胞の寿命が大きく影響します。ヒトの細胞は50回分裂すると死滅し、増殖を繰り返します。これを「ヘイフリックの限界」と云います。細胞が老化して枯渇してくると、やがて寿命を終えることとなります。

「脳」「神経」「心筋」代謝はきちんと行われますがある程度まで成長すると、細胞分裂はしなくなります。とくに人の寿命は「心筋」の寿命とも云われています。高血圧、糖尿病、肥満、不整脈などは要注意です。

「骨」は2年半で総入れ替え。骨折の修復には3週間を要します。草野球で3塁にスラディングして腓骨を、き裂骨折、ギプスで我慢の3週間でした。

「筋肉」は2ヶ月で半分が入れ替わります。負荷をかけることによって、筋肉も骨も発達し、骨粗鬆や認知症軽減にも運動します。足の鍛錬を怠ると骨と皮、行き着く先は寝たきり状態。後期高齢者に効果的なのは、ジョギングよりウォーキング、歩く距離より日数、準備体操、水分補給、少し汗をかく程度で、決して頑張らないインターバル歩行がお薦め。鍛える筋肉は、脚を前に上げる中臀筋、後ろに上げる大臀筋、膝を伸ばす大腿四頭筋、つま先を上げる前脛骨筋、下げる下腿三頭筋などを、意識して歩くことが大切とのこと。

筋肉量は30歳台以降1年で1%ずつ減少し、そのうえ高齢者では原材料の吸収力が次第に低下します。

足の筋肉は第2の心臓とも云われる程重要です。

「満足とは、足を満たす」ことからきているとか。

「赤血球」の寿命は120日。消費に鉄分の供給、臨床検査医学の権威者曰く「年寄は赤い肉類をしっかりと食べよ」と。では生きてるタコやイカの血液は何色？

「白血球」の寿命は3~4日、「リンパ球」は数

ヶ月~数年。どちらも生体防御のシステムリーダーです。

「血小板」は極端に短く5~10日が賞味期限で、血小板輸血には迅速さと新鮮さを要する由縁です。

「血清アルブミン」の半減期は、およそ21日。免疫、生体防御や栄養状態把握などの指標になります。

「気道上皮細胞」の寿命は、およそ100日。

「腸の絨毛上皮細胞」は2日。全長5~7m、表面積はテニスコート1面に匹敵、善玉・悪玉・日和見菌など腸内細菌は約千種類で総重量1,5kg。脳内の神経伝達物質「セロトニン」の95%を生産、免疫力の7割を担うなど、腸は第2の脳と称されるのも納得です。

「舌」の味蕾細胞の寿命は数日から2週間、高齢者の味蕾は、新生児の2分の1にまで減少します。

「肝臓」は2ヶ月、「髪」「肌」は1ヶ月、特に「肌」などには紫外線や活性酸素が有害で、遺伝子の設計ミスなどにつながります。

「腎細胞」は短命。不健康な生活習慣がドミノ倒し、所謂「メタボリックドミノ」に至ります。腎組織や細胞の寿命のサイクルが狂うと、腎不全など、重篤な疾病がおこります。僅か150gの二つの腎から透析される血液量は、1日なんと1,500ℓ。一升瓶で830本！

腎細胞に必要な原材料を多種多様な飲食材から摂取し、まんべんなく供給しなくてはなりません。

そんなわけで、多分いろんな部位の細胞が日々入れ替わって、だいたい7~8年かけて体質が変わります。つくづく、健康寿命でありたいと思うこの頃です。

◆ 市内には10ヶ所ほどの公民館があり、老人クラブなど高齢者向けの「慶寿大学」や「さわやか学級」などと称して健康講座・健康セミナーからのオフアがあります。その話の種の一部を紹介した次第です。

パワーポイントを使いますと、画像に注目して居眠りする人が少なくなります。サイズはおよそ200KB、350画面、1時間半ほどになり、劣化し始めた脳機能（もしかしてMC I?）のトレーニングと思い、日々ネットサーフィンで情報の収集をしています。



(元・がんセン中央) 高橋正雄

放・談・続・行

佐藤 乙一

「バカ」とは何か

日本人は能力のない人のことをバカというらしい。無能力者と云えばわかり易いが、失礼になるからだ。これを“馬鹿”と書いているから、馬さんや鹿さんは怒っているだろう。私の亡兄は戦前、千葉の習志野にあった騎兵第16連隊の兵士だった。元の国立習志野病院は、その付属陸軍病院。休暇があって家に帰る時は、腰に1メートルもある長い刀（サーベル）をぶら下げ、膝関節の下まである皮の長い靴を履き、騎兵らしく勇姿(?)を家族や地元に見せるべく帰って来たものだ。服は純毛のカーキ色・ラシャ製。その兄がよく教えてくれた。「馬はナ、人間の言葉はわかるんだが、行動は反対なんだ。例えば人が馬に向かって「シッ」(止)と云えば動き出し、「ドウ」(動)と云えば止まるんだ」と。

私が子供の頃(昭和の1ケタ時代)は大量の物資搬送は大体馬。だから町内も村内も馬の糞だらけ。いたるところでムチを持ったオジサンがシッ、ドウと叫びながら荷物を運んでいたことを思い出す。それは大切な財産であり、その馬が死亡すれば神になった。どこにもよくある、あの「馬頭観世音」の碑がそれだ。馬はバカじゃないよ。鹿だって利口な動物だ。

年老いたら昔の夢を見る

私は山梨出身。叔父が山梨県庁に勤めていた。祖父母が生存中は近くに出張で来ると、仕事終了後下車しては家に立ち寄り、私から見れば祖父母(実の

父母)の顔を見に来たもの。私の生家は嘉永6年築と屋根棟の(上棟式に立てた)“のし棒”にそう書かれていた。ゆえに家もあちこち歪みができ、冬になり木枯らしが吹くと北側の戸袋に入っている戸が寂しくゴトゴトと音を立てて揺れる。叔父は幼い私に言っていた。「乙一、年をとるとナ、幼い頃の夢をよく見るんだ。裏戸が甲州の唐っ風に吹かれて、ゴトゴトという音を立てている夢を見る」と。なるほど、それがまさに今の私だ。職場の夢では1か月ほど前、星野辰雄さん(今ブラジル在住)と立川病院検査科の中をブラついている夢を見た。

人魂(ヒトダマ)を見たという医師

国立立川病院という古めかしい病院名と別れてもう何年か。忘れるほど前に、仲の良かった医師や看護師等ほんの数名で一杯会をしたことがある。そこで出た某元医長の話。「ほんと、人魂ってあるんだヨ。俺はこの目で見たんだ。人間に人魂論の存在は実在する。」と言い切る。病院から「担当科の受け持ち患者が重症だ」との連絡を受けた。重症病棟へ入室する手前を歩いていたら、青光りのする球状のものが、病室の近くから出て、遙か彼方に飛んでいき、そのあとで息を引き取ったんだ」と言うのだ。その医師はいろいろ調べてみたらしい。さらに話を続けて言う。「古くから夜間に空中を飛び、青白い光は人魂で実在するのが本当だった。俺は見た。人魂を。人は言うだろう“近代科学者らしくない”と。だが俺は今も人魂を信じている。」と。ならば私の魂は今、体のどこにあるのかな、それを知りたい95歳になったから。

「幕末の医師シーボルト」

ー日本人に西洋医学を教えた医師ー

西武学園医学技術専門学校 東京池袋校言語聴覚学科

副校長 木下 忠雄

○イダ・ヘレーネ・フォン・ガーゲルン : P・シーボルトが1828年国外退去となり、1830年オランダに帰着。1845年シーボルト48歳の年、ドイツ人で25歳下のガーゲルンと再婚(ドイツ人妻)。P・シーボルトの間に3男2女をもうける。

○アレクサンダー・シーボルト(長男) : 1846年8月16日～1911年1月?日。P・シーボルトとドイツ人妻ガーゲルンとの間に生まれた長男。

シーボルトが再来日の時(1859年)12歳の時、一緒に初めて来日。父が帰国しても日本に留まりイギリス公使館勤務を続ける。稲、高子とも交流。

アレクサンダーは二宮啓作やその弟子三瀬周三、さらには近所の僧侶からも、習字を含め日本語を学んだ。

1862(文久2)年「生麦事件」が発生、若い福澤諭吉の通訳では直訳過ぎて問題がおき、アーネスト佐藤と共にその交渉で活躍する。

1867(慶応3)年徳川昭武(14歳)が、パリ万国博覧会に将軍・徳川慶喜の名代としてヨーロッパ派遣を命じられると、アレクサンダーはその通訳として同行した。パリ滞在中に明治維新が起こり一行は帰国したが、アレクサンダーは一行の帰国後もしばらく欧州に留まり1869(明治2)年初めに日本に戻る。この時、次男のハインリッヒを伴う。

1870(明治3)年英国公使館を辞職、文明開化の最中の新政府に雇用され、上野景範の秘書として活躍。1975(明治8)年大蔵省専属翻訳官となる。

1878(明治11)年パリ万博委員。1881(明治14)年井上馨秘書。1894(明治27)年に日英通商航海条約の調印に成功。1910(明治43)年政府勤続40年の祝典が開催され勲二等瑞宝章を贈られる。

○ハインリッヒ・シーボルト(次男) : 1825年7月21日～1908年8月11日。P・シーボルトとドイツ人妻ガーゲルンとの間に生まれた次男。

父の日本研究の資料整理を手伝っているうちに、日本に対する強い興味と憧れを持つようになり、兄のアレクサンダーが一時帰国をした時、その兄の再来日に同行して1869(明治2)年初来日を果たす。

日本では兄と共に諸外国と日本政府との条約締結などの職務に着手、その間に父の手伝え中に学んだことを生かし様々な研究活動を始め。

勤務先となったオーストリア=ハンガリー帝国公使館では通訳、書記官を経て代理公使を務め、後にその功績を称えられて同国の国籍を得る。1891年には同国の男爵位を賜る。

日本が初めて正式参加となったウィーン万国博覧会では、政府の依頼により兄と共に出品の選定にかかわり、同万博の通訳としても帯同、シーボルト兄弟が関わった日本館は連日の大盛況で、成功を収める。その際に選定に関わった町田久成、蜷川式胤らとはその後も親交を続けた。

彼らとは好古仲間として幾度も小物会を開催し、9代目市川團十郎なども参加名を連ねた。蜷川らはハインリッヒと交流することで当時最先端であった欧州の考古学を学ぶ。

次男ハインリッヒは日本橋の商家の娘岩本「はな」と結婚。2男1女をもうけるが長男はハインリッヒがウィーン万博博覧会に帯同中に夭折。次男は日本画家をめざし岡倉天心らの開いた上野の東京美術学校(現、東京芸術大学)にみごと一期生として合格するが、創作活動の中、体調を崩して25歳の若さで没した。

ハインリッヒの妻、岩本はなは長唄、琴、三味線、踊りも免許皆伝の腕前で、学習院院長乃木希典より宿舍膳担当として、若くして子供を亡くしたはなが指名される。また、後には福澤諭吉の娘の踊りの師匠でもあった。

ハインリッヒの娘蓮もその指導を受け長唄の杵屋流、琴の生田流の免許皆伝を受けている。

日本におけるハインリッヒの功績は数多い。兄が父の外交的才能を受け継いだのに対し、ハインリッヒは父の研究分野における才能を色濃く受け継いだ。

考古学の分野では、大森貝塚を始め、多くの遺跡を発掘。日本の考古学を飛躍的に発展させた。

現在ヨーロッパに散らばっている、シーボルトコ

レクションはその数、数万点にも及び、その半数はハインリッヒの蒐集したものであると言われている。

8.シーボルトの再来日

1853年米国海軍軍人ペリー提督が日本の開国を迫って浦賀に来航、大統領の親書を幕府に提出した。この時ペリーへ日本の沿岸地図を提供したのがシーボルトと言われている。

翌年江戸湾に再航。横浜で和親条約締結。

1854年に日本は開国し、日蘭和親条約に代わり、1858年には日蘭通商条約が結ばれ、シーボルトに対する国外追放令も解除される。

1859年、オランダ貿易会社顧問として再来日し、1861年には対外交渉のための幕府外交顧問となる。貿易会社との契約が切れたため、幕府からの手当で収入を得る一方で、プロシア遠征隊が長崎に寄港すると、息子アレキサンダーに日本の地図を持たせて、ロシア海軍極東遠征隊司令官リハチョフを訪問させ、その後自らプロシア国使節や司令官、全権公使らと会見し、司令官リハチョフとはその後も密に連絡を取り合い、その他フランス公使やオランダ植民大臣ら等の要請に応じ頻りに日本の情勢についての情報を提供する。

平行して博物収集や自然観察なども続行し、風俗習慣や政治など日本関連のあらゆる記述を残す。

しかし、この間P.シーボルトは家政婦としてお滝と稲が雇ったシオとの間に子供をもうけ、イネを深く失望させた。(この子は後に教師となったとの記述があるようです)

また、イギリス公使オールコックを通じて長男アレクサンダーをイギリス公使館の職員に就任させる。

シーボルトは日本の外交顧問となり、政府の重職たちに外交上の様々な献策を行った。この事は当時のオランダ総領事ドゥ・ウィットの反感を招くことになる。ドゥ・ウィット領事は「時代遅れの老軍医が本職を差し置いて余計な口出しをする」と外国奉行に苦情を申し入れた。また、ウィットは「単独行動をとるシーボルトを江戸に滞在させるのは極めて危険である。警固上も問題があり責任がもてない」と外国奉行所に指摘をした。

江戸・横浜にも滞在したが、幕府より江戸退去を

命ぜられ、幕府外交顧問・学術教授の職も解任される。シーボルトはこの国の世情が驚くほど変化したことをひしひしと感じた。

オランダの独占貿易は終わりを告げ、幕府は露、仏、英、米と通商条約を結んだ。あれほど栄光を放っていた将軍家も斜陽の兆しを隠せない。——今や自分は各方面から邪魔者扱いにされている……。

帰国の準備を始めたが、長男のアレクサンダーだけは江戸に残ることになった。英国公使館から「日本語の通訳に」と頼まれたのだ。15歳の息子を残して去るのは不安だったが、アレクサンダーがどうしても通訳の仕事をしたいと懇望したのでやむなく承知した。

1862年3月12日、シーボルトは多数の収集品と共に長崎から帰国した。

9.日本における貢献(シーボルトの功績)

我が国の1820年代の医学は、主に漢方医によって治療がなされ、その技術は秘伝とし、かなり閉鎖的であった。しかし、シーボルトは当時の西洋医学の最新情報を日本の医師や希望する人に惜しみなく教えるというものであり、日本全国から新技術を求めて鳴滝塾に集まってきた。

また、門下生には学術教授と同時に、医学、生物学、風俗・民俗学、地学など多岐に亘る事物を課題として与え、その収集した結果をオランダへ発送した。

シーボルト事件で国外追放された際にも多くの標本や地図なども持ち出している。この一部はシーボルト自身によりヨーロッパ諸国の博物館や宮廷に売られシーボルトの研究継続を経済的に助けた。

生物標本、またそれに付随した絵図は、弟子や当時の出島出入りの絵師だった河原慶賀らに多数描かせていたため、当時ほとんど知られていなかった日本の生物に付いて、重要な研究資料となり、模式標本となったものも多い。これらの多くはオランダライデン王立自然史博物館に保管されている。

植物の押し葉標本は12,000点、それを基に「日本植物誌」を刊行した。その中で記載した種類は2,300種になる。植物・動物学名に*sieboldi*とあるものはシーボルトに対する献名。

今日、日本紫陽花などヨーロッパの園芸界に広く

紹介され、改良されていったのはシーボルトの功績とされている。

シーボルトの日本での収集した資料は後に「ニッポン」「日本植物誌」「日本動物誌」などに纏められ広く世界の国々に日本を紹介されている。

この功績が後の日本がヨーロッパをはじめとした世界に認知される大きなきっかけとなったのである。

ドイツに帰国後シーボルトによって作られた日本地図で、樺太と大陸間の海峡最狭部を「マミアノセト(間宮海峡)」と命名し紹介した。海峡自体は「タタール海峡」と記載してヨーロッパに紹介したことで、世界地図で当時日本人の個人名が付いているのは、最近の南極大陸の岬にビタミンの父、高木博士の「高木岬」が付けられたがそれ以外では初めてとされている。(完)



シーボルトの妻
楠本 滝



稲の娘
楠本 高子



シーボルトの娘
楠本 稲



楠本稲と高子



第一回目の来日時
シーボルト 26 歳



第2回目来日時
シーボルト 64 歳





尾道市 千光寺公園より 2017.11.11 T.MIURA



2018年2月9日~25日



国臨協関信支部
第37回OB会総会・懇親会

2018年6月第一週土曜日予定



2018年6月14日~7月15日

6/19 日本 vs コロンビア

6/25 日本 vs セネガル

6/28 日本 vs ポーランド

会員名簿変更のお知らせ

会員名 榎部依子さんの住所

桜新町 1-9-10 ⇒ 桜新町 1-10-1

編集後記

OB会だよりは、年3回(1月、5月、9月)発行しています。投稿原稿は毎号不足気味です。是非、投稿をお願いいたします。

今年もOB会総会・懇親会というお楽しみ会を左記のように開催予定です。多数の皆様の参加をお待ちしております。

寒いです。風邪ひいてます。今年は2月11日で65歳になります。年金満額いただけるようになります。妻は1つ下なので1年間だけ加給年金もいただけます。有り難いです。3つぐらい下だったらよかったのに…、今回は嵯峨野会を欠席したので恒例の写真がありません、そろそろOB会だより編集担当も交代希望、などと流れに身を任せ年の瀬を過ごしております。

本年もよい一年となりますよう、健康ファーストで、皆々様のご幸運をお祈り申し上げます。

(記 三浦隆雄)

